

# 第1次みやま市総合計画

人・水・緑が光り輝き  
夢ふくらむまち





# 第1次みやま市総合計画

## 計画策定の背景

高度情報化、地球規模での環境破壊、少子・高齢化の進行など昨今の我が国を取り巻く社会経済状況が急激に変化している中、住民ニーズの高度化・多様化がますます進むことが予想されます。

地方自治体においても新たな地方のあり方が問われる中、地域の実情や住民ニーズを的確に反映させるべく地方分権時代に対応できる自己決定・自己責任による自治能力の向上を図ることが求められています。

また、これからのまちづくりには、住民と行政などの各種団体が、ともに考え、支え合う協働のまちづくりへの転換が必要となっています。

このように地方においても大きな転換期を迎え、全国的に市町村合併が進められる中、旧瀬高町、旧山川町、旧高田町3町の合併によって平成19年1月29日にみやま市が誕生しました。

旧3町は、合併前までそれぞれの総合計画をもとに将来像の実現に向けた行政運営を行ってきました。3町の合併に際し、瀬高町・山川町・高田町合併協議会において、平成18年3月に「合併新市基本計画」を策定しました。

第1次みやま市総合計画は、この「合併新市基本計画」の考え方を基本にしながら、旧3町の歴史や伝統文化、特性を生かすとともに、本市の一体感を創りあげ、目指すべき「まちの将来像」を実現するため、本市の今後10年間のまちづくりのあり方を示すことを目的として策定するものです。

### ■総合計画とは…

地方自治法第2条第4項において、「市町村は、その事務を処理するにあたっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行なうようにしなければならない。」と規定されています。

## 計画の概要

### 1 計画の目的と役割

#### (1) 計画の目的

第1次みやま市総合計画は、平成21年度(2009年度)から始まる新しいみやま市のまちづくり、ひとづくりの指針となることを目的として策定します。

#### (2) 計画の役割

本計画は、以下のような役割を持っています。

- 住民と行政がみやま市の現状、課題、将来の予測に関する情報を共有するための役割
- 時代の流れを認識し、将来目標達成に向けての政策を明らかにする役割
- 住民と行政の協働による政策形成の仕組みを明らかにする役割
- 国、県、広域圏その他関係機関と連携・協力するための指針としての役割

### 2 計画の構成と期間

この計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」で構成し、平成30年度を目標年次とします。

#### (1) 基本構想

基本構想は、本市の現状とまちづくりの課題を踏まえ、目指すべきまちの将来像とこれを実現するための施策の基本的な方向を示すものです。

基本構想の期間は、平成21年度(2009年度)を初年度とし、平成30年度(2018年度)までの10年間とします。

#### (2) 基本計画

基本計画は、基本構想をもとにその目標を達成するため、施策の具体的な内容を部門別に体系化したもので、実施計画の基礎となります。



# まちづくりの将来像

人・水・緑が光り輝き夢ふくらむまち

地方分権、財政危機、行財政構造の変革、少子高齢社会への対応など、地方自治体を取り巻く環境は急速に変化し、時代の転換期を迎えています。

平成19年4月現在、本市は福岡県下28市の中で6番目に人口が少なく、かつ高齢化率（65歳以上の人口が全体人口に占める割合）は県下の市の中で第1位となっています。

また、本市の財政状況も極めて厳しい状況にあり、健全財政を維持するためにも行財政改革は喫緊の課題であり、市としても行政改革推進本部を立ち上げ、慎重かつ大胆に進めています。

このような中、本市においては、平成20年4月に、保健医療経営大学が開校するとともに、有明海沿岸道路の大牟田IC～高田ICが一部供用開始となりました。

さらに、平成21年春には九州縦貫自動車道のみやま柳川インターチェンジが完成し供用開始となること、また、九州新幹線筑後船小屋駅が、平成23年春に県営筑後広域公園内に開業予定など道路、鉄道等の社会的経済基盤の整備が飛躍的に進展しています。

みやま市は、お牧山、清水山などの山並みに育まれた自然と矢部川やその支流の飯江川や大根川などの河川に流れる美しい水、大地の実りにあふれた田園、歴史と新しい時代が融合した個性的な街並みなど四季折々に豊かな風景に彩られるまちです。

また、このような本市の恵まれた自然環境等によって、高齢者が元気に安心して生活できる環境も形成されています。

道路、鉄道等の社会的経済基盤の整備推進など本市を取り巻く社会環境の変化への対応とともに、恵まれた地域資源の有効活用を図りながら、本市の持つ個性を活かしたまちづくりが今後の大きな課題であるといえます。

第1次総合計画の策定にあたっては、大きな飛躍の時期に立っていることを認識し、「人」が主役となって、みやま市の持つ「水」「緑」を中心とした豊かな地域資源を生かし、磨き上げ、協働の理念に基づき豊かなまちづくりを行っていくことが必要であると考え、

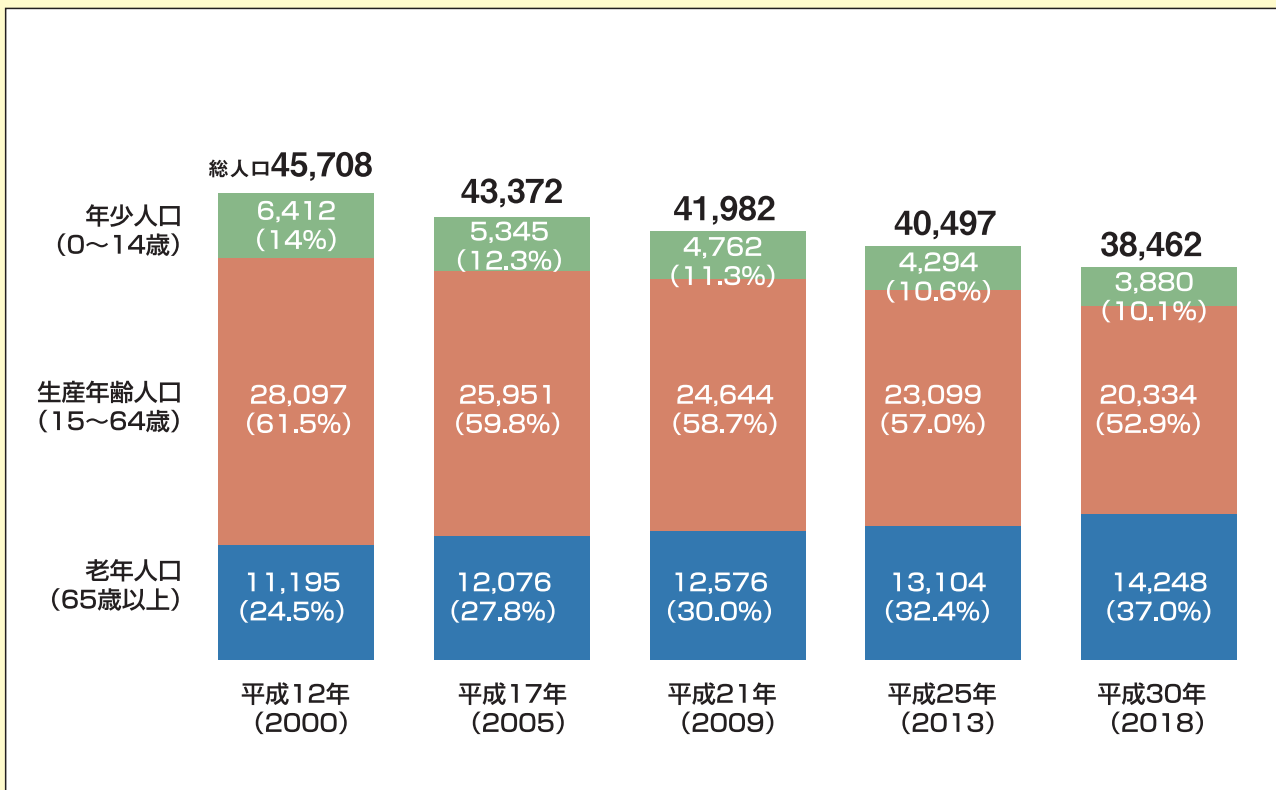
「人・水・緑が光り輝き夢ふくらむまち」と将来像を定めます。

## 人口の見通し

### (1) 総人口

平成30年（2018年）までの本市の将来人口を、平成12年と17年の国勢調査による男女各歳人口をもとにコーホート要因法によって推計しました。

その結果、中間年度の平成25年（2013年）で約40,500人、目標年度の平成30年（2018年）で約38,500人と予想され、平成17年の43,372人に比べ約4,900人の減少が予想されます。



### (2) 年齢別人口

本市の年齢別人口をみると、老年人口については、平成25年（2013年）で13,104人（32.4%）、平成30年（2018年）で14,248人となり、全体の37.0%に達すると予想されます。